

大型開発を聖域化、新福祉社会館は先送り 市民軽視の予算案 賛成2、反対21で否決

西岡真一郎市長が提出した2016年度予算案が、3月定例市議会最終日に賛成2（民主党のみ）、反対21で否決されました。

2016年度予算案の特徴は、武蔵小金井駅南口第2地区など大型開発に多額の税金を投入する一方で、低所得世帯の就学援助制度を引き下げ、保育料の値上げ・学童保育所のさらなる委託化へと突

き進むものとなっています。

また、3月末で閉館となった福祉社会館の建替えでは、2019年10月完成めざしてスタートした建設計画を、利用者や市議会に説明もなく一方的に中止し、いつ完成するかもわからないジャンメ跡地での「6施設複合化」に固執しています。

否決された開発優先の新年度予算案

武蔵小金井駅南口第2地区再開発に8億5,720万円、東小金井駅北口区画整理事業に14億5,833万6千円

西岡市長が民主党の都議会議員だった頃は、民主党が国の政権に就いていました。キャッチフレーズは「コンクリートから人へ」。ところが、市長になったとたん180度方向転換。小金井市の土木費

は前年度と比べて19億円もアップし、武蔵小金井駅南口第2地区再開発を本格化、東小金井駅北口区画整理事業には14億5,800万円余を予算化しました。

予算否決なのに推進。これで「子育て日本一」？

就学援助の認定基準を段階的に引き下げ

駅前開発には多額の税金を充てながら、低所得世帯の小中学生の学費を助成する就学援助の認定基準を、今年度から3年かけて段階的に引き下げます（右表参照）。その結果、2015年度比で200人前後が就学援助の支給対象外とされてしまいます。

小金井市の説明では、「0.1倍」引き下げごとに550万円の削減となり、削減によって生まれた財源を、小中学校の就学援助の入学時学用品費に3年間で1,000円ずつ段階的にアップ。2018年度に、2015年度よりも3,000円アップさせたいとしています。

西岡市長は、新年度予算が否決されたにもかかわらず、就学援助の引き下げは予定どおり実施するとしています。

西岡市長は教育費を増額するのではなく、現行の教育予算の範囲内で対応しようとしているために、入学時学用品費増額の財源を就学援助の認定基準引き下げでまかなうものとなっています。選挙公約の「子育て日本一」を言うのであれば、教育予算の増額こそ行なうべきです。

2015年度：生活保護基準1.8倍までの所得世帯が対象
2016年度：生活保護基準1.7倍までの所得世帯が対象
2017年度：生活保護基準1.6倍までの所得世帯が対象
2018年度：生活保護基準1.5倍までの所得世帯が対象

保育料値上げ・学童保育所のさらなる委託化を計画

西岡市長は、認可保育園の保育料引上げを計画しています。今年1月25日の「小金井市子ども・子育て会議」に、「利用者負担のあり方について」と題した諮問書を交付し、今年の夏ごろまでに保育料引上げに向けての意見をまとめるように求めています。小金井市は「子ども・子育て会議」の意見を経て市の考え方をまとめ、来年4月から保育料値上げを行なう予定です。

西岡市長は、学童保育所の委託化も推進しようとしています。昨年4月から「あかね（第三小学校）」「みどり（緑小学校）」「さわらび（第四小学校）」「まえばら（前原小学校）」の4つの学童保育所が委託されました。委託期間は5年間で予定し、5年後に再度、委託事業者を公募する方針です。

小金井市は「委託することでサービスが拡充する」と説明してきました。ところが安い委託費などを背景に、「さわらび学童保育

所」の委託事業者が1年で撤退する事態となり、小金井市は今年度から市直営で「さわらび学童保育所」を運営することになりました。しかし西岡市長は、来年4月から「さわらび学童保育所」を委託に戻し、「ほんちょう（本町小学校）」「みなみ（南小学校）」も委託化する方針です。

稲葉市政とどこが違うのか？

西岡市長は、昨年12月の市長選挙で「子育て日本一」を掲げて当選しました。しかし大型開発は「聖域」、負担増・委託化は「推進」。これではいままでと、なんら変わりありません。稲葉孝彦市政と、どこが違うのでしょうか。市民の期待に応える市政へ変わるべきです。

日本共産党
市議会議員

板倉真也

184-0014 小金井市貫井南町4-20-31 ☎FAX 042(386)0404 ホームページ「板倉真也」で検索を 2016年4月



突然、市内の都市計画道路が「優先整備路線」に「反対」意思を示さない西岡市長に怒り渦巻く

3・4・1号線と3・4・11号線を「10年以内に整備」



東京都が3月30日に決定した「都市計画道路方針（第4次事業計画）」は、対象路線に明記された都市計画道路を2016年度から10年以内に整備する「優先整備路線」に位置付けるとするもの。このなかに、小金井市内の「3・4・1号線」と「3・4・11号線」が組み入れられました。

東京都が方針案を発表したのは昨年12月下旬。「3・4・1号線」

と「3・4・11号線」は市民や議会に前触れもなく、リストに載せられました。しかし、この2つの路線は、小金井市民の憩いの場であり自然の宝庫でもある国分寺崖線の緑地帯を破壊し、地域住民の生活やコミュニティを分断するものとなります。到底、認められるものではありません。ところが西岡市長は、東京都の計画に「反対」意思を一切、示していません。

耳を疑う西岡市長の答弁「市が判断する立場にない」

3月議会で、日本共産党市議団は「東京都に『反対』の意思を伝えよ」と市長に求めましたが、市長は「東京都が独自に決定した道路であり、小金井市が判断する立場にない」「市民から頂戴した意見は、東京都に届ける」と述べるのみ。「東京都に説明会の

開催を申し入れよ」と要求しても、「小金井市だけに説明を求めていくのは難しい」との答弁に終始しました。傍聴席を埋めた市民からは「どこの市長なのか」と、怒りと失望の声が沸き起こりました。

市民の声に押され「早期にすすめるのではなく、景観や環境を守る」に答弁変更

3月議会で、2つの都市計画道路を「優先整備路線」に組み入れることの見直しを求める陳情書が提出され、署名数は4,500筆を超えました。

予算委員会で私は「この2つの都市計画道路を優先的に整備しなければならないと、市長自身は思っているのか」と西岡市長を追

及しました。答弁に窮した市長は休憩を求め、再開された委員会で市長は「早期にすすめるのではなく、景観や環境を守ることを検討する必要がある」と述べ、これまでの傍観的な答弁から一歩、前進しました。



事業化断念めざし、みなさんと力を合わせて頑張ります

西岡市長は3月22日に東京都に出向き、市民や議会から寄せられた意見を伝えました。東京都からは「同じ方向に向かって協力してほしい」との回答があったと、翌日の建設環境委員会で報告されました。東京都の回答を裏返せば、西岡市長が市民の側に立って「反対」となれば、東京都とは「同じ方向」ではなくなり、事

業化を断念させることが可能となります。国分寺崖線の自然と緑を守り、地域住民の不安をなくすためにも西岡市長が「反対」意思を明確にし、東京都に「事業化やめよ」と迫るよう、さらなる取り組みをすすめていくことが大切です。私もみなさんと力を合わせて頑張ります。

西岡市長の「6施設複合化」では福祉会館建設のメド見えず

西岡市長は、新しい福祉会館をジャノメ跡地に「合築」で建てると述べ、①本庁舎、②前原暫定集会施設、③本町暫定庁舎、④第2庁舎（リース庁舎）をジャノメ跡地に移し、⑤福祉会館、⑥図書館本館を合築した「6施設複合化」の建物にするとしています。ところがスケジュールや財源含めて実現可能かどうかを、これから「検証」というのです。しかし、ジャノメ跡地に複合施設を建てるためには、さまざまな課題が横たわっており（下図参照）、実現のメドはまったく見えてきません。

